研究ノート

カンタベリー地震に関する震災資料の現状

水本　有香[1)]

要　約

ニュージーランドは，日本と同様に地震多発国である．2010年，2011年には南島のカンタベリー地域において地震が発生した（カンタベリー地震）．2011年の地震では，日本人28名を含め死者185名の大きな被害を受けた．

本稿は，発生から約8年が過ぎ，東日本大震災の直前に発生したカンタベリー地震に関する震災資料がどのような機関によって収集，保存されているのか，どのような種類の震災資料が集まり，どのように公開されているのか，震災資料のグローバルな枠組み，持続可能な収集，保存，公開体制を見据え，現状を述べる．

Key words：ニュージーランド，地震，震災資料

はじめに

日本と同様に地震大国であるニュージーランドでは，2010年および2011年に連続した地震による甚大な被害が発生した（カンタベリー地震）．特に，東日本大震災の前月の2011年2月に発生した地震によって，ニュージーランドの南島にあるクライストチャーチは大きな被害を受けた．

地震発生から約8年が経つ．日本において，東日本大震災に関する震災資料は，国レベルは，総務省が国立国会図書館と連携し，インターネット上に分散して存在する東日本大震災に関するデジタルデータを一元的に検索・活用できるポータルサイト「東日本大震災アーカイブ」基盤構築プロジェクトを実施した．この取り組みは，国立国会図書館の「東日本大震災アーカイブひなぎく」への運用につながっている．県レベルとしては2012年，岩手県，宮城県，福島県内の大学図書館，公共図書館が，震災資料の受け入れを開始した．宮城県（2015年），岩手県（2017年）のWEB上のアーカイブ事業が完成したことで，両県における震災アーカイブの構築事業は収束しており，福島県は現在，震災資料の収集事業を実施している．震災資料のグローバルな枠組み，持続可能な収集，保存，公開体制を見据えて，東日本大震災とほぼ同時期に発生したカンタベリー地震に関する震災資料の収集・保存機関，および震災資料の種類[(1)]，公開などの現状を捉える．

1．カンタベリー地震の概要

ニュージーランドの南島に位置するカンタベリー地域は，オーストラリアプレートと太平洋プレートの境界にあり，地震が頻繁に発生する．地震が発生すると，これまで知られていなかった

[1)] 神戸学院大学現代社会学部社会防災学科

活断層が地表に現れ，地滑りや液状化が南アルプスや北カンタベリー地域において発生するが，カンタベリー平野および南カンタベリーにはあまり発生してこなかった．2010年，2011年に発生した地震では，これまで確認されていなかった活断層が，数千年前ぶりに動いたと言われる．これまで，カンタベリー地域では，1869年，1870年，1881年，1888年，1901年，1922年，1929年，1946年，1994年，1995年，そして2010年および2011年と地震が頻発してきた．

カンタベリー地震は，2010年9月4日，午前4時35分発生，ダーフィールド地震（Darfield Earthquake）M7.1と2011年2月22日，午後0時51分発生，クライストチャーチ地震（Christchurch Earthquake）M6.3，死者185名の2つの地震を指す．

2011年以降にも，2016年11月14日，カイコウラ地震（Kaikoura Earthquake）が発生し（M7.8），死者2名の被害が出た．

ニュージーランドは，地震を含む大災害の対応および準備などを定める基本的な国の法律として，「2002年民間防衛緊急事態管理法」を有する．2010年地震の際，ニュージーランド政府は同法に基づいて，緊急事態宣言を行った．震災への対応および復旧のため，同年9月14日，「2010年カンタベリー地震対応及び復旧法」（2010年法）が制定された．2011年地震の際，政府は，同年2月23日，2002年法に基づき緊急事態宣言を行った．そして，3月29日，2010年法に基づく総督令[(2)]により，「カンタベリー地震復旧庁（CERA）」を設置した．また，4月18日，「2011年カンタベリー地震復旧法」が制定，2010年法が廃止された[(3)]．

ニュージーランドは，全国を16のRegion（地方・地域）に分け，11のRegional Council（広域行政機関），78のLocal Authorities（地方公共団体）がある．Canterbury Provincial Councilは南島の4広域行政機関（Canterbury，Otago，Southland，West Coast）の1つである．2011年のカンタベリー地震の震源であるリトルトンを含む甚大な被害を受けたクライストチャーチ市（Christchurch City Council）は，地方公共団体の1つである．

クライストチャーチ市は，地震被害からの復旧，復興を進めるため，2010年，2011年の地震からの復興計画「復興3か年計画2013-2016」を策定した．クライストチャーチ市議会は，平常時の長期計画の策定を地震からの復興計画を優先させるため，2015年の「長期計画2015-2025」まで遅らせた．地方公共団体は，3年ごとに長期計画を策定する義務を有する．現在は，2018年に「長期計画2018-2028」を発表している．2018年の長期計画によると，地震によって被災したインフラの再建は完了したが，甚大な被害を被った部分については引き続き修理の必要があり，同市はあと数年修理のため予算が必要となる．また，2017年6月，同市の人口が地震前の水準に戻り，住宅価格も安定を見せた．市中心部の商業地は空き地が多く目立つが，多くの商業施設が再建されつつある[(4)]．

2．カンタベリー地震に関する震災資料の収集・保存機関

カンタベリー地震に関する震災資料の収集・保存・整理などを地震発生以後から現在に至るまで継続的に行い，公開している機関として，主に，公立図書館，博物館，公文書館，大学がある．

①クライストチャーチ市立図書館

クライストチャーチ市立図書館は，中央図書館および地域の18分館[(5)]，移動図書館，デジタルライブラリーから成る．中央図書館は，1982年，市内中心部のグロスターストリートとオックスフォードテラスの角，大聖堂広場から数分の場所に建てられた．2011年2月の地震により被害を

受け，「クライストチャーチ中心部復興計画」（Christchurch Central Recovery Plan）によりコンベンションセンター内への移転が決まり，2014年に解体された．それ以降，中心部から少し離れたマンチェスターストリートで開館してきたが，2018年8月26日から閉館，同年10月12日，大聖堂広場へ移転，再建された．

資料の検索時，キーワードを「カンタベリー地震（Canterbury Earthquakes）」と入力すると，435点ヒットした[(6)]．うち図書（Book）が225点と資料の半分を占める．図書といえども政府関連機関による復旧・復興計画，区画整理，住宅の修理・再建，仮設住宅，心のケアなどに関する報告書も多い．図書以外に，PDFファイルおよびWordファイル，インターネット上に掲載されたカンタベリー地震に関連するWEBページを保存したHTMLファイルの形態が保存されている．その他に，写真集，被災者向けのニュースレターなどが収集，保存，公開されている．資料は，利用に貸出可（Available），館内閲覧（In-library use only）の制限はあるが，利用者が自由にアクセスし，利用することができる．

②博物館

カンタベリー博物館は，1867年12月2日から一般公開を開始し，1870年10月1日以来，現在のロールストンアベニューの場所にある．博物館が所蔵する資料は230万点を超え，カンタベリー地域と南極大陸に焦点を当て，世界的な人類史と自然史に関する資料を約150年にわたって収集してきた．博物館の管理は，カンタベリー博物館信託委員会法の下，地方自治体および他の組織の代表者が含まれ，カンタベリー博物館信託委員会に委任されている．

写真1　“Quake City”外観

カンタベリー地震に関する資料の展覧会“Quake City”は，2012年，一時的に博物館で開催した後，2013年2月から，カンタベリー博物館の館内ではなく，キャッシェル・モールにおいて被災したクライストチャーチ大聖堂の尖塔を含む実物資料によりカンタベリー地震の影響を表した展示を行った．建物のリース契約期限が迫ったため，2017年6月25日，展覧会を一時閉鎖し，同年9月14日，3年間のリース契約を締結したダーラム・ストリートへ移転，展示を再開した．

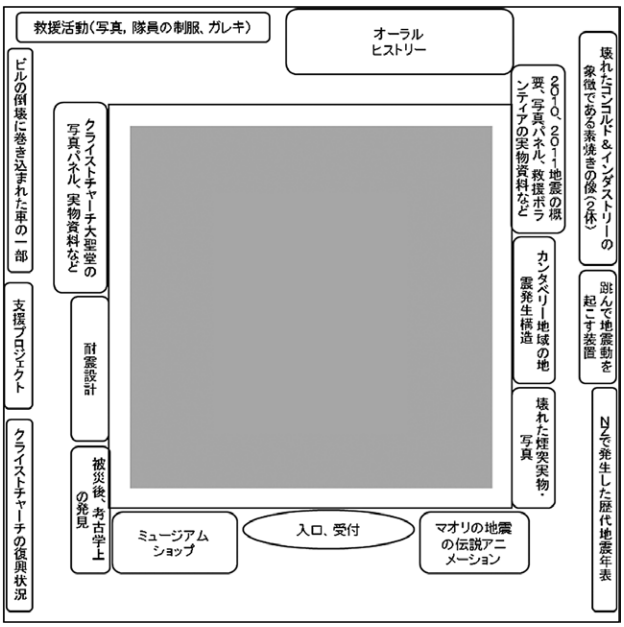

図1　“Quake City”展示見取図（概略）

更新された展示は，先住民族マオリの伝説，地震の神（Rūaumoko）の説明から始まる．ニュージーランドで発生

した地震の年表，カンタベリー地震の概要，国際緊急救助隊（日本の国際緊急援助隊制服を着たマネキンを含む）の活躍の様子，ボランティアの対応，クライストチャーチ大聖堂の被害など，これまでの発災直後の被害の状況，救援活動だけではなく，被災者が被災体験を証言しているオーラルヒストリー，被災地に対する支援プロジェクト，耐震設計，これまでのクライストチャーチの復興状況などについて，来館者は写真パネル，実物資料を通してカンタベリー地震について知ることができる．

カンタベリー博物館の常設展示スペースは，カンタベリー地域および南極大陸に関する自然学，人類学などの観点から設置されている．ニュージーランドでは歴史上，地震のほか自然災害が頻発するため，地震だけではなく高潮や洪水などの自然災害が発生するメカニズムに関する常設展示がある．博物館の企画展示スペースは，定期的に展示替えが行われている．カンタベリー地震に関する資料展示“Quake City”は，数年おきの展示替えを経て，博物館内で常設展示するのではなく，企画展示スペースで展示するのでもなく，賃貸契約した場所で「半常設，半企画展」（temporary）状態を選択，継続している．被災地が地震の被害からの復旧，復興へと変化する過程において，固定の展示ではなく，被災地の変化を展示替えにも反映させた可変の実物資料が中心の展示となっている．

表１　“Quake City”に展示されているニュージーランドの地震年表

地震発生年月日	マグニチュード
1844年6月5日	約M5.8
1851年9月	不明
1855年6月	約M8.2
1869年6月	約M5.8
1870年8月31日	約M5.8
1881年	約M6
1888年9月1日	M7.3
1901年11月16日	M6.8
1922年12月25日	M6.4
1929年3月9日	M7.1
1929年6月17日	M7.8
1929年6月17日	M7.8
1945年1月1日	地震と戦争
1946年6月27日	M6.2
1959年	民間防衛危機管理庁の発足
1968年5月24日	M7.1
1987年3月9日	M5.2
1990年2月10日	M5.9
1994年1月1日	保険の対象から戦争による損害を外し、地震，津波，地滑り，火山噴火・熱水活動，サイクロン，暴風，洪水等，自然災害に起因する損害へと変更した
1994年6月18日	M6.7
1995年11月24日	M6.3
2010年9月4日	M7.1
2011年2月22日	M6.3　リトルトン

表２　“Quake City”に公開されているオーラルヒストリーのプログラム表

語り部名前	性別	被災場所	被災地域	備考
Anie	女性	Richmond in North	East Christchurch	
Phil	男性	QeⅡ Pool in North	New Brighton	
Courtney	女性	QeⅡ Pool in North	New Brighton	
Grant	男性	Forsyth Barr House on Cambridge Terrace	The Central City	
Amanda	女性	Pyne Gould Corporation building on Cambridge Terrace	The Central City	
Pete	女性	Pyne Gould Corporation building on Cambridge Terrace	The Central City	
Richard	男性	Auckland Airport then the Canterbury Television Building in Madras Street	The Central City	
Cris	男性	Songi Otautahi	Lament	
Sue	女性	Christcurch Cathedral in Cathedral Square	The Central City	
Ken	男性	Shirlye in North	East Christchurch	
Jason	男性	Christcurch District Court on Durham Street	The Central City	警官
Wendy	女性	Oxford Terrace	The Central City	
Allie	女性	Redcliffs School	South East Christchurch	
Liz	女性	Corner of Hereford and Colombo Street	The Central City	
Natalie and Georgia	女性、女性	Tourist Attraction		歌

③公文書館

国立公文書館（http://archives.govt.nz/）は，2005年の公文書法（Public Records Act）に基づき，政府機関が作成した公文書を保存，管理，公開する．公文書館が所蔵する資料は，インターネットによって検索することができる．資料は，首都ウェリントンの国立公文書館，その他，オークランド，クライストチャーチ，ダニーデンの地方公文書館で閲覧することができる．

2010年，2011年の地震による大きな被害が発生し，復旧のための法律が制定されたことから，ニュージーランド政府の各機関は被災地の復旧，復興に関する事業を実施する．事業の実施に際し，各機関は様々な文書を作成され，その後，政府機関が作成した文書は公文書館へ移管される．復旧，復興事業に関する文書は大量且つ多様であるが，文書館のホームページ上での検索された点数の少なさは，作成された文書に関する事業が未了である場合（復興事業は10年間），作成された文書の保存年限，作成された機関から文書館への移管などの理由からカンタベリー地震に関して作成された文書の大部分は，現用文書のため復興事業担当の機関で保存されており，震災関連事業の公文書は事業終了後，文書館へ移管される予定となっている．

資料の検索時，キーワードを「カンタベリー地震（Canterbury Earthquakes）」と入力すると，21点がヒットした．うち6点は2010年地震が発生する以前の1800年代，1900年代に作成されている．15点の文書は，ウェリントンの文書館および被災地であるクライストチャーチの文書館にそれぞれ保存されている．資料の公開は，閲覧可能な「公開（Open access）」，公開に制限のある「制

表3　「カンタベリー地震」資料検索結果一覧

シリーズ名および資料名		資料作成期間		最終責任機関	公開可否	保存館
カンタベリー地震により発生した建築物瑕疵に対する英国審議会の審議						
	カンタベリー地震英国審議会（マオリ名）中間報告　2011年10月	2011	2011	内務省	公開可	ウェリントン
	カンタベリー地震英国審議会（マオリ名）最終報告　2012年6月29日　第1巻 第1-3巻の要約と推薦　地震活動、土壌、建築物の耐震設計	2012	2012	内務省	公開可	ウェリントン
	カンタベリー地震英国審議会（マオリ名）最終報告　第2巻　クライストチャーチCBDビルディングの性能	2012	2012	内務省	公開可	ウェリントン
	カンタベリー地震英国審議会（マオリ名）最終報告　第3巻　軽微な被害の建築物の技術	2012	2012	内務省	公開可	ウェリントン
	カンタベリー地震英国審議会（マオリ名）最終報告　2012年10月8日　第4巻 地震被害が発生しやすい建築物	2012	2012	内務省	公開可	ウェリントン
	カンタベリー地震英国審議会（マオリ名）最終報告　2012年11月29日　第5巻　第5-7巻の要約と推薦　本審議へのクライストチャーチ市の取り組み	2012	2012	内務省	公開可	ウェリントン
	カンタベリー地震英国審議会（マオリ名）最終報告　第6巻　カンタベリーテレビビルディング（CTV）	2012	2012	内務省	公開可	ウェリントン
	カンタベリー地震英国審議会（マオリ名）最終報告　第7巻　役割と責任	2012	2012	内務省	公開可	ウェリントン
クライストチャーチのオーラルヒストリー記録プロジェクト						
	オーラルヒストリー研究プロジェクトーーREMEMBERING CHRISTCHURCH：20回のインタビュー。インタビューを受けた人々は、1920年代から1940年代初期にクライストチャーチに生まれた。プロジェクトの目的は、2010年2011年に発生した地震によってクライストチャーチの初期の社会的な歴史や記憶の散逸を防ぐため	2013	2013	文化遺産省	その他（公開可）	その他（アレキサンダーターンブル図書館、ウェリントン）
マニング中学校理事会の議事録および他の管理書類						
	マニング中学校-カンタベリー地震についての書類	2010	2011	マニング中学校	制限付	クライストチャーチ
リッチモンドスクール（クライストチャーチ）管理記録						
	リッチモンドスクール閉校合併プロジェクト資料（カンタベリー地震関連の学校、両親、サポーター、他の地域の学校、および大臣と文部省、リッチモンドスクール、シャーリー学習コミュニティ提供資料、新聞切り抜き資料を含む）	2012	2012	リッチモンドスクール（クライストチャーチ）	制限付	クライストチャーチ
文書および報告書の複製（コピー）						
	被害報告書-CERA[カンタベリー地震復旧庁]用コピー1-16（2月-3月）	2011	2011	民間防衛危機管理庁（南島事務所）	制限付	クライストチャーチ
	管理：ODESC[国内外安全調整委員会]、共同セクション、CERA[カンタベリー地震復旧庁]、大臣による内閣非常事態宣言（2月-3月）	2011	2011	民間防衛危機管理庁（南島事務所）	制限付	クライストチャーチ
	ピーターキャメロン行動下-災害対応トラック、シドニー水運搬トラックからCERA[カンタベリー地震復旧庁]への寄贈、NCMC[国立危機管理センター]物流（3月）	2011	2011	民間防衛危機管理庁（南島事務所）	制限付	クライストチャーチ
バーウッドスクール管理記録						
	バーウッドスクール-カンタベリー地震対応プログラム報告書	2012	2012	バーウッドスクール	公開可	クライストチャーチ

限付（Restricted access）」，「その他（See More：他機関の保存など）」に分かれる．15点は，6か所の組織がそれぞれ作成した資料である．

公文書館が所蔵する震災資料の特徴として，(1) 公文書館が本来収集する公文書として，内務省，文化遺産省，民間防衛危機管理庁（南島事務所）といった政府機関が作成した地震の被害に関する文書，復旧過程の文書を所蔵するのみならず，(2) クライストチャーチの学校が地震の際に対応した際の文書，および(3)他の図書館が所蔵する資料情報として，クライストチャーチのオーラルヒストリー記録プロジェクトを含み，これまでに発生した地震被害からの復旧，復興および法律の策定などによって作成，収集された膨大な公文書と合わせて保存，公開されている．

④カンタベリー大学

カンタベリー大学（University of Canterbury）は，1873年に創立された．オタゴ大学に次いで，クライストチャーチ市内に建てられたニュージーランドで2番目の国立総合大学である．創立から約100年間は，クライストチャーチ中心部，現在，アートセンターのある場所に建てられたが，1975年，中心部から約7 km離れたアイラム地区に移転した．

カンタベリー大学は，2011年10月27日，2010年および2011年に発生したカンタベリー地震に関する動画や音声，文書や画像等を収集保存するデジタルアーカイブのウェブサイト「カンタベリー地震デジタルアーカイブ」（CEISMIC）を公開した．

本ウェブサイト（http://www.ceismic.org.nz/）は，カンタベリー大学だけではなく，ニュージーランド国立図書館，文化遺産省，NZ On Screen [7]，クライストチャーチ市立図書館，カンタベリー地震復旧局（CERA），カンタベリー博物館，Te Papa（ニュージーランド国立博物館），NgāiTahu Research Center（NTRC）[8] など，それぞれの組織が収集・保存するカンタベリー地震関連の資料を「カンタベリー地震デジタルアーカイブ」（CEISMIC）上で検索，結果を閲覧することが可能である．

例として，カンタベリー博物館において被害を受けた現物資料が展示されていた煙突‘chimney’を同アーカイブ上で検索した場合，376件がヒットした．その内訳は，画像が300件，記事46件，報告書4件，音声3件，映像2件，その他3件である．それぞれの資料には，①資料の種別，②資料の作成年月日，③二次利用の可否，④資料作成者名，⑤資料の出所の情報が1件ずつ付与されている．

図２　検索結果の一例

「2010年9月4日の地震で被害を受けた煙突の写真」

カンタベリー大学は，カンタベリー地震に関連する多様なコンテンツを保存するためデジタルアーカイブ“QuakeStudies”（https://quakestudies.canterbury.ac.nz/）も構築している．このアーカイブは，カンタベリー地震の地震被害を文書化し，地域社会の復興を記録，ニュージーランドおよび世界中の地震と災害後の対応と復興に関する研究を促進することを目指す．また，教育機関および研究者からの研究資料を保管するだけでなく，コミュニティ，企業，政府，その他の組織や個人に長期的なアーカイブサービスを提供し，地震に関する重要な知識を保存する．カンタベリー地震の影響に関心を持つ人々に対して，自由かつオープンにコンテンツにアクセスすることが可能である．QuakeStudiesは，オープンソースのデジタルリポジトリであり，カンタベリー大学のITインフラストラクチャの一環として，QuakeStudiesアーカイブは完全にバックアップされ，長期的な運用が保証されている．

2018年10月現在，QuakeStudiesは，1,914件のコレクションの中に149,079点の資料を収集・保存されている．QuakeStudiesに保存されている資料は，CEISMICカンタベリー地震デジタルアーカイブを介してアクセスすることが出来る．

QuakeStudiesとCEISMICは，Creative Commonsライセンスの使用を推奨することにより，資料の共有，二次利用を可能としている．クリエイティブ・コモンズのライセンスは，著作権者が事前にこのアーカイブの利用者に一連の許可を与えることで，資料の二次利用を可能にしているインターネットのための著作権ルールである[(9)]．

QuakeStudiesの所蔵資料の二次利用の際の方法については，「QuakeStudiesリポジトリに保存されている特定のリソースを引用したい場合は，そのアイテムのランディングページへのリンクまたはURLを入力して，ユーザーがサイトにアクセスしたときにアイテムの説明とライセンス情報を表示するようにしてください（例：https://quakestudies.canterbury.ac.nz/store/object/315434）」と具体的な事例を示している．QuakeStudiesの資料は，運営スタッフが収集する資料に加えて，希望者自らがカンタベリー地震関連資料をQuakeStudiesアーカイブに寄贈することも可能である．

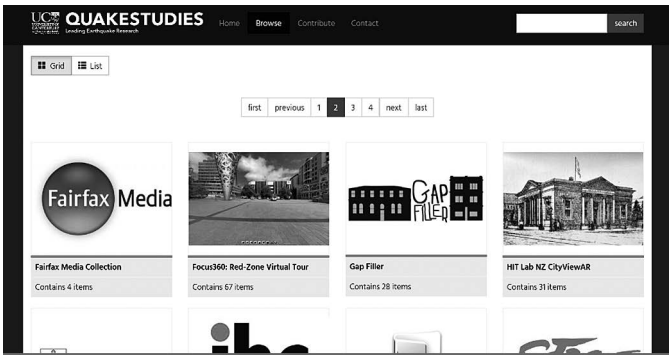

図３　QuakeStudiesへ資料提供している出所例

３．カンタベリー地震に関する震災資料の種類，公開，アクセシビリティ[(10)]

上述した2．カンタベリー地震に関する震災資料の収集･保存機関では，図書資料，紙資料，モノ資料，写真・映像・音声資料，オーラルヒストリーのほか，クライストチャーチ市内には，カンタベリー地震に関する震災モニュメント，震災遺構がある．

①図書資料

カンタベリー地震に関する政府機関の報告書，写真集などの冊子体の資料である．主に，図書館において収集，保存，公開されている．図書資料は，資料情報をインターネット上で簡単に検索することができる．被災した人々だけではなく，住民，住民以外の人々にも情報アクセスしやすく，利用可能である．

②紙資料

図書資料以外の一枚ものの資料などを指す．図書館が収集しているNGOなどが発行したニュースレターなどのほか，公文書館が収集，保存している資料を含む．図書館が所蔵する資料は，図書資料と同様に利用可能である．公文書館が所蔵する紙資料は，大量に複製，頒布されたものではなく，オリジナルである原資料(一次資料)であり，また，利用制限基準に基づき利用が行われる点から他の震災資料と比べてアクセシビリティは低いように思われるが，地震の被害からの復旧，復興に関する重要な情報源となっている．政府機関が発行する報告書などは，これらの原資料を基に作成されていることが多く，手続きを経て閲覧することが可能である．

③モノ資料

地震で壊れた時計，家の煙突や教会の像，ビルの倒壊に巻き込まれた車などの地震の被害の大きさが可視化できる資料とともに，支援するボランティアが着たTシャツ，長靴などの実物資料．カンタベリー博物館が収集，保存している資料の一部が，“Quake City”において公開されている．

写真２　壊れた煙突（モノ資料）

写真３　国際緊急援助隊の展示

④写真・映像・音声資料，デジタルアーカイブ

政府関係者，報道機関関係者のみならず多くの人が，カンタベリー地震の被害をとらえた写真や映像を撮影した．その後も，被災地では地震の被害からの復旧，復興の過程，定点観測，周年の記念行事など，大量且つ多様な写真，映像による記録保存が継続的に行われている．これらの多量の写真資料，映像資料は，カンタベリー博物館による“Quake City”の展示における活用に加えて，カンタベリー大学が管理する2つのデジタルアーカイブにおいて収集，保存，公開されている．デジタルアーカイブの利用者は，WEB上で公開されるカンタベリー地震に関するあらゆる写真・映像・音声資料を検索，閲覧することができる．資料によっては，利用者が資料の二次利用が許可されており，同時に利用者自体が資料を提供する体制が整えられている．発災直後から救援情報，インフラ情報などが掲載されたWEBページは，被災者の避難生活が終わると閉じられてしまうことが多いため，写真・映像・音声資料のほかに，HTMLファイルの形態で保存したWEBページが収集，保存，公開されている．

⑤オーラルヒストリー

2011年のカンタベリー地震は昼間に発生したため，多くの人がそれぞれ会社や学校，市内中心部などで揺れを体験した．オーラルヒストリーは，人々が自らの被災体験を証言したものであるが，記録される媒体は，映像資料および音声資料，証言内容を文字に起こしたテキストデータなど多様である．“Quake City”内に設置されている映像のほか，カンタベリー大学のプロジェクトがある．

2012年12月3日，カンタベリー大学によるカンタベリー地震のデジタルアーカイブ“QuakeStudies”で，地震の中およびその後の女性の体験談を収録したオーラルヒストリーアーカイブの提供が開始された．このオーラルヒストリーアーカイブプロジェクト“Women's Voices: Recording women's experiences of the Canterbury earthquakes”は，ニュージーランド女性協議会クライストチャーチ支部とカンタベリー大学との共同による．プロジェクトでは，30人以上のボランティアが，クライストチャーチ在住の女性100人にインタビューし，“QuakeStudies”では，その音声データとテキストが提供されている[(11)]．

⑥震災モニュメント

カンタベリー地震後，犠牲者を偲んで慰霊碑，追悼碑などの震災モニュメントが被災地に建立された．

a. 石碑（Cashel Mall）

2011年2月22日の地震によりシティーモールにおける犠牲者を祈念する碑が建てられている．

b. Avonhead Park Cemetary

地震の翌年，2012年2月22日，犠牲者家族の働きかけにより，犠牲者を祈念する場所が墓苑内に建設された．

c. Oi Manawa/カンタベリー地震国立メモリアルプロジェクト

ニュージーランド政府，クライストチャーチ市，クライストチャーチマオリ族団体（Te Runanga O Ngai Tahu）が合同で，エイボン川沿いに，地震の犠牲者，負傷者，全ての生存者を畏敬する場所を2017年2月22日，設置した．

写真４　カンタベリー地震
国立メモリアルプロジェクト

d. 185の空の椅子

地震後1周年である2012年2月22日，地元の芸術家ピーター・マジェンディーは，倒壊，撤去されたオックスフォードテラスバプティスト教会の跡地に白い塗装をした185の空の椅子を並べた．主なインスピレーションは，所有者の異なる人格を表す空の椅子のヴィンセント・ヴァン・ゴッホによる絵画による．2012年10月，バプティスト教会の敷地内で再建作業が始まるため，椅子は数百

写真５　185の空の椅子

メートル南に移動して，倒壊した聖パウロ教会の敷地に移動した．この場所はCTVビルの斜め向かい側にあり，CTVビルでは115人が死亡した．椅子は当初，一時的な設置と考えられてきたが，再び聖パウロ教会の敷地は，クライストチャーチ・スタジアムのために政府によって指定されたため，製作者は椅子の恒久的な設置場所を求めている．

⑦震災遺構

クライストチャーチ市中心部は，計画に基づき復興に向けて建物の再建が進んでいる一方，地震によって被害を受けた建物が，取り壊されずに保存されている（存置）．

a．クライストチャーチ大聖堂（Christchurch Cathedral）およびカーボードカセドラル（Cardboard Cathedral）

移民たちにより1864年に教会建設が開始．当初は木造建築の教会であったが，地元近郊で教会建築に適した石材が見つかり石造建築に変更された．金銭的な理由から着工から完成までに約40年の歳月を費やし1904年に完成した．着工から完成まで3回，大きな地震に遭い（1881年暮れ，1888年北カンタベリー地震，1901年11月16日チェビオット地震），尖塔の頂上が落下するなど被害を受けた．2011年の地震により北側尖塔部分が崩壊，その後の6月13日に起きた余震により正面のステンドグラスの窓や西側の壁が75％まで崩壊するなどの被害を受けた．2012年2月，教会の修復には5,000万NZドル～1億NZドル（約34～68億円）の費用が必要で，内部はまだ危険な状態で今後も地震が起きる恐れがあったため，修復再建は断念し，解体が決まったことが発表された．現在，尖塔は解体されたが，それ以外の部分は解体されていない．

被災した大聖堂の代わりとして，大聖堂から数ブロック離れた場所に2013年8月，紙管製の教会（カーボードカセドラル）が建設された（234 Hereford Street）．この教会は，日本人建築家の坂茂氏によるもので，最低10年間の使用が計画され，現在も使用されている．阪神・淡路大震災（1995年）で被災した鷹取教会（神戸市長田区）において，同年9月17日，坂氏の設計による紙管を使用した仮設集会所兼聖堂が完成，ペーパードームたかとりと名付けられた．この建築物は2005年に解体され，1999年に発生した「九二一地震」の被災地である台湾の南投県埔里鎮桃米村に復興の交流拠点として2006年移設された．2005年，震災10

写真６　存置された被災建築物

写真７　クライストチャーチ大聖堂

写真８　カーボードカセドラル

周年を機にカトリック鷹取教会からカトリックたかとり教会と名称を変更した．2007年，教会の敷地内に仮設聖堂を手掛けた同氏の設計による紙管製の新聖堂が完成した．

b．CTVビル（Madras Street）

2011年の地震により倒壊，115名の犠牲者が出たCTVビルの跡地は，駐車場となっている．厳密には建物が保存されていないので震災遺構ではないが，多くの犠牲者を追悼するメモリアル施設が検討され，結論には至っていない．

おわりに

2010年，2011年に発生したカンタベリー地震に関する震災資料は，①収集・保存機関として，新規あるいはカンタベリー地震限定，時限的な機関ではなく，公立図書館，博物館，公文書館，大学という既存の機関が，②それぞれ従前の所蔵資料の枠組みや機能を活かした持続可能な体制の中で震災資料を収集，保存し，③それぞれの機関の単独および協力したネットワークにより，利用者が震災資料に自由にアクセスすることができること，さらに，利用者による震災資料の二次利用へと活用が広がっていることが分かった．東日本大震災の被災地と同様に，カンタベリー地震の被災地において復興が進む中，震災資料は絶えず生み出され続けている．ニュージーランドでは，既存の機関の枠組み，持続可能な体制を通じて，大量且つ多様な震災の記録や記憶を後世へ引き継ぐべく営為が続けられている．

注

（1）1995年に発生した兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）に関する震災資料を保存，公開している人と防災未来センターによると，震災資料の種類は，一次資料として，モノ資料（地震発生時刻で止まった時計など），紙資料（避難所の日誌，被災者の手記など），写真資料（倒壊した建物の写真など），映像・音声資料（被災者が撮影した震災の映像など），二次資料として，図書，雑誌，視聴覚資料，その他に分けられている．http://www.dri.ne.jp/material/material_outline（2018年10月20日アクセス）．

（2）総督は，関係大臣の助言により，総督令（Order in Council）を制定し，既存の法令の適用を除外し又は法令を改正することができる．矢部明宏「【ニュージーランド】カンタベリー地震普及関連立法」『外国の立法』国立国会図書館調査及び立法考査局，2011年10月．

（3）同上．

（4）“Christchurch City Council draft Long Term Plan 2018-2028”, Christchurch City Council, March 2018, p.20.

（5）分館は，Akaroa，Aranui，Diamond Harbour，Fendalton，Hornby，Linwood，Little River，Lyttelton，Matuku Takotako（Sumner Centre），New Brighton，Ōrauwhata（Bishopdale Library and Community Centre），Papanui，Parklands，Redwood，Shirley，South，Spreydon，Te Hāpua（Halswell Centre），Upper Riccarton.

（6）クライストチャーチ市立図書館ホームページ https://my.christchurchcitylibraries.com/（2018年10月14日アクセス）．

（7）NZ On Screenは，3000以上のタイトルを自由に閲覧でき，1,000以上のプロフィールと約300件のインタビューが掲載されている．ウェブサイトはニュージーランドのテレビ，映画，音楽ビデオのアーカイブ．

(8) NgāiTahu部族とCanterbury大学との共同イニシアチブとして，2011年8月に設立された．NgāiTahuは，ニュージーランド南島に居住するニュージーランド先住民族マオリの部族．

(9) クリエイティブ・コモンズ・ライセンスは，国際的非営利組織「クリエイティブ・コモンズ」が提供するインターネットの新しい著作権ルールであり，作品を公開する作者が「この条件を守れば私の作品を自由に使って構いません．」という意思表示をする．クリエイティブ・コモンズ・ライセンスを利用することで，作者は著作権を保持したまま作品を自由に流通させることができ，受け手はライセンス条件の範囲内で再配布やリミックスなどをすることが出来る．

クリエイティブ・コモンズ・ライセンスのマーク例

「クリエイティブ・コモンズ・ライセンスとは」https://creativecommons.jp/licenses/（2018年10月7日アクセス）．

(10) アクセシビリティとは，「利便性．交通手段への到達容易度．ある地点や施設への到達容易度．」などの意があるが，本稿において「(accessibility)」とは，利用者にとっての震災資料に関する情報やサービスへの到達容易度．

(11) “Women’s Voices: Recording アクセシビリティ women’s experiences of the Canterbury earthquakes”（女性の声：カンタベリー地震の女性の体験談録音）https://quakestudies.canterbury.ac.nz/store/collection/228